



## 創造と挑戦

先進エレクトロニクスで未来を創造する  
ソリューションデザインカンパニー

2024年3月期第2四半期 決算説明会資料

萩原電気ホールディングス株式会社  
(東証プライム・名証プレミア 7467)  
2023年12月4日

2024年3月期第2四半期決算説明会資料

## 2024年3月期 第2四半期 決算概要

### 第2四半期は3期連続で増収増益となり、過去最高を更新

- 売上高は、前年同期比25.0%増の1,080億円で過去最高。自動車生産台数の回復や車種展開等による需要増加に加え、顧客のIT投資や設備投資等を取り込み、売上が増加した。
- 営業利益は、販管費の増加を上回る売上総利益の増加により、前年同期比71.8%増の45億円、経常利益は、前年同期比58.9%増の46億円となり、どちらも過去最高となった。
- 前年同期にM&Aに伴う負ののれん発生益6.7億円を特別利益に計上したことの反動減があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比16.5%増の30億円となり、過去最高となった。

## 2024年3月期 業績予想

### 期初予想から上方修正し、3期連続の過去最高更新を予想

- 第2四半期までの実績および昨今の業績動向を踏まえ、期初予想に対し上方修正を行い、3期連続で過去最高を更新する見通しとなった。

皆様、こんにちは。

萩原電気ホールディングス代表取締役社長の木村です。

これより、当社の2024年3月期第2四半期決算の概要と今期の見通しについてご説明させていただきます。

こちらは、本日のハイライトになります。

第2四半期は、売上高、営業利益、経常利益、純利益とも過去最高を更新させていただきました。

また、通期予想についても上方修正をいたしております。後ほどご説明させていただきます。

## 2024年3月期第2四半期決算概要

2024年3月期業績予想

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(現状分析)

トピックス

## 2024年3月期第2四半期業績



■ 売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益のすべてで3期連続で増収増益となり、第2四半期決算として過去最高を更新した。

(単位:百万円)

	2023年3月期2Q		2024年3月期2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	86,412	100%	108,013	100%	+21,601	+25.0%
売上総利益	8,087	9.4%	10,452	9.7%	+2,365	+29.2%
販管費	5,416	6.3%	5,863	5.4%	+447	+8.3%
営業利益	2,671	3.1%	4,589	4.2%	+1,917	+71.8%
経常利益	2,909	3.4%	4,623	4.3%	+1,713	+58.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,606 <sup>*1</sup>	3.0%	3,036	2.8%	+429	+16.5%
1株当たり四半期純利益 (円) <sup>*2</sup>	294.37	—	326.01	—	+31.64	—

\*1 前期2Q時点ではM&Aに伴う負ののれん発生益等について暫定的な会計処理を行っていましたが、前期末に確定したため、本資料では、負ののれん発生益を確定値670百万円に置きなおして各数値を記載しております。

\*2 新株予約権の権利行使により前年同期と比較し発行済株式数が増加しております。期中平均株式数は、2023年3月期2Qは8,854,055株、2024年3月期2Qは9,313,675株となります。

2024年3月期第2四半期決算説明会資料

3

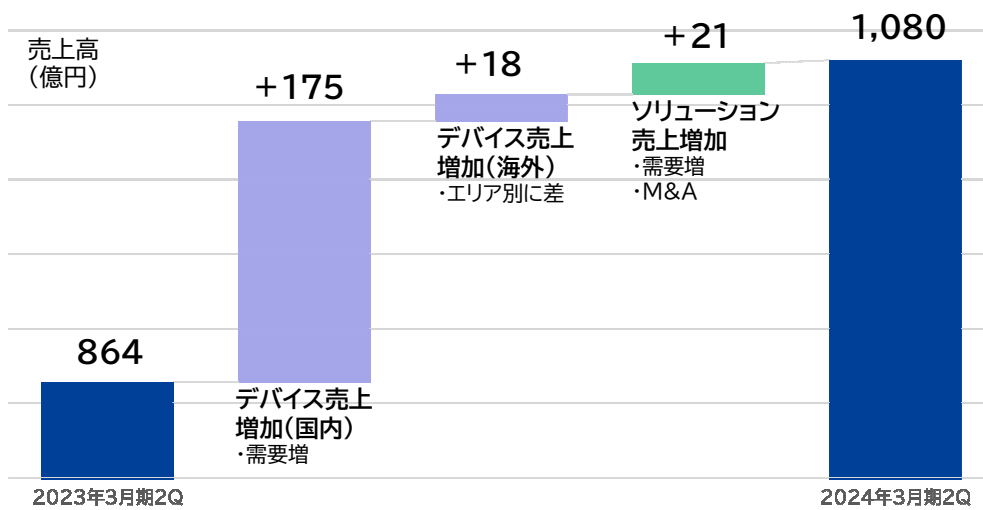
それでは、第2四半期決算のご説明に移ります。

売上高は1,080億円、前期比で25%増加、営業利益は45億8,900万円で、前期比71.8%増加、経常利益は46億2,300万円で、前期比58.9%増加、四半期純利益は30億3,600万円で、前期比16.5%増加となりました。

売上、利益ともに2桁増であり、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益の全てにおいて過去最高の業績となりました。

## 売上高の増加要因

- 前年同期比較で216億円(+25.0%)増加した。
- 自動車生産台数の回復や採用品の車種展開等により国内を中心にデバイス事業の売上が好調だったことに加え、顧客のIT投資や設備投資需要を取り込んだソリューション事業の売上也好調であった。



2024年3月期第2四半期決算説明会資料

4

売上高は、前期と比較して216億円の増加となっております。

これは、デバイス事業の国内を中心とした売上増加が大きく寄与しております。

売上増加の一番の要因は、半導体不足が緩和されたことで当社の主要顧客である自動車産業のお客様の生産が非常に好調だったことです。

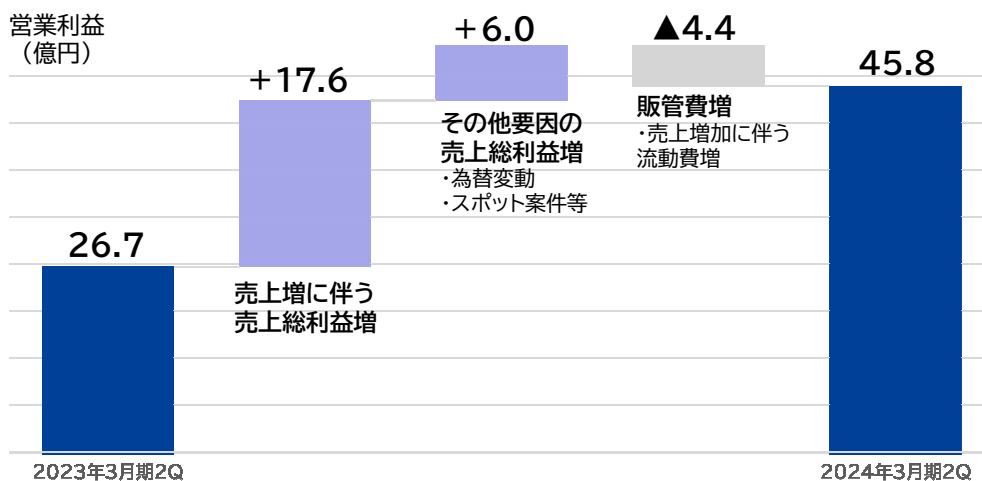
自動車生産台数が回復したことに加えて、電動化の進展の中で、採用品の車種展開や新規採用品の立ち上げなどがあり、売上は前期を上回り推移いたしました。

ソリューション事業においても、自動車産業の顧客の積極的な投資姿勢が当社の売上増加につながりました。

## 営業利益の増減要因



- 前年同期比較で19億円(+71.8%)増加した。
- 売上増加や円安等により売上総利益が大幅に増加したことに加えて、販管費は増加したものの上昇率を抑えたことで、営業利益率は1.1ポイント向上した。



2024年3月期第2四半期決算説明会資料

5

次に、営業利益は、前期と比較して19億円増加となりました。

売上増加に伴い、売上総利益が約17億6,000万円増加したことに加え為替変動や特殊要因による利益が約6億円ほど発生いたしました。

販管費は、4億4,000万円増加しております。

売上増加に伴い流動費は増加したものの、商流移管で支払いが発生する移管補償金が減少するなどもあり、上昇率は抑えることができております。

結果として、営業利益は前期比71.8%増加の45億8,900万円となりました。

営業利益率は1.1ポイント上昇し、4.2%となりました。

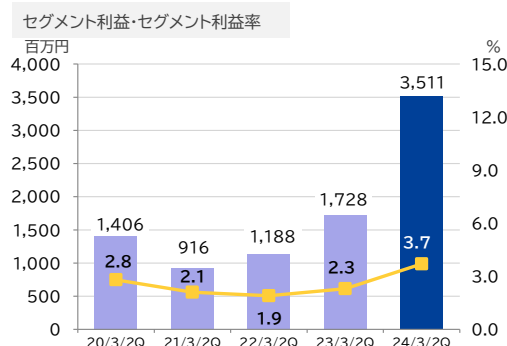
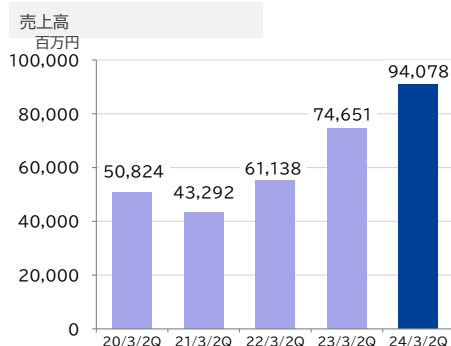
## デバイス事業 業績概要



- 自動車生産台数の回復や採用品の車種展開等で半導体・電子部品の需要が増加したこと、円安効果もあり売上が増加した。
- 販管費の上昇が抑えられたことで、利益率が1.4ポイント向上した。

(単位:百万円)

	2023年3月期2Q		2024年3月期2Q		
	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比
売上高	74,651	100%	94,078	100%	+19,426 +26.0%
セグメント利益	1,728	2.3%	3,511	3.7%	+1,782 +103.1%



2024年3月期第2四半期決算説明会資料

6

それでは、事業別の業績についてご説明させていただきます。

デバイス事業の売上高は940億7,800万円で、前期比26%増加、セグメント利益は35億1,100万円で、前期比103.1%増加となりました。

先ほどもご説明させていただきましたが、売上は、自動車生産台数が回復したことに加えて、電動化の進展の中で、採用品の車種展開や新規採用品の立ち上げなどがあり、また円安効果などで前期比較で194億円伸びております。

ここ数年の半導体不足という状態は緩和されつつあり、ひっ迫した在庫状況であった製品についても、円滑な供給に向けた適正在庫化が進んでおります。

経費面では、売上と連動し人件費などが増加しましたが、商流移管に伴う移管補償金の支払いが前期比較で1.7億円減少するなど、上昇率は抑えることができております。

セグメント利益率は1.4ポイント向上し、営業利益を約17億円伸ばすことができました。

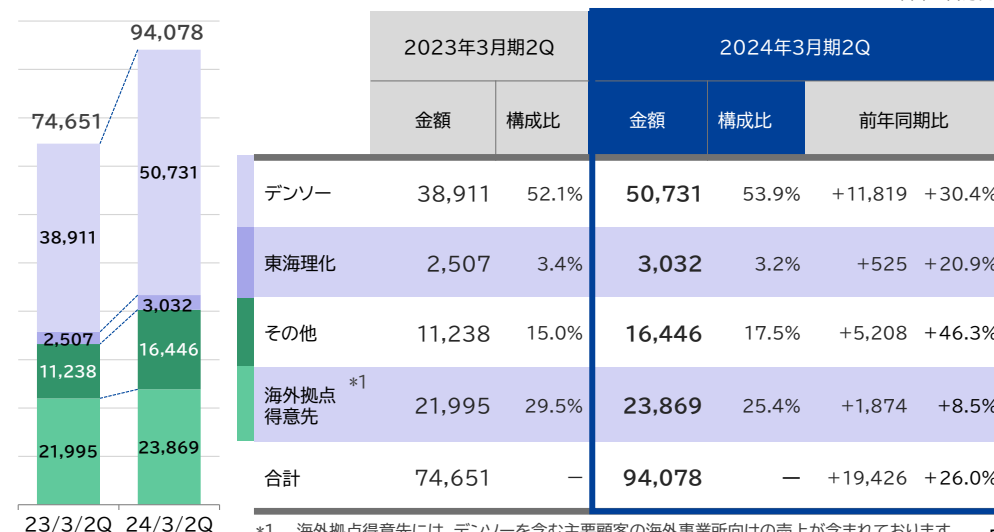
## デバイス事業 得意先別売上高前期比較



■ 半導体不足の緩和や自動車の電動化領域の伸展により顧客生産が活発化したことと併せ、新規採用や車種展開があり、主要顧客の国内向け売上を中心に売上が好調だった。

(単位:百万円)

(単位:百万円)



2024年3月期第2四半期決算説明会資料

\*1 海外拠点得意先には、デンソーを含む主要顧客の海外事業所向けの売上が含まれております。

7

デバイス事業の売上について、少し分解してご説明させていただきます。こちらは、得意先別の売上です。

国内では、自動車生産台数の回復もあり、主要顧客への販売が好調に推移しております。

また、生産回復による増加だけでなく、採用品の車種展開や新規採用品の立ち上げなどでも売上を伸ばしました。

ADASや電動化関連でSoCなどの半導体や電子部品の売上が好調だったほか、液晶なども好調に推移いたしました。

## デバイス事業 エリア別売上高前期比較



■ 自動車生産台数の回復等により、国内を中心に売上を大きく伸ばした。  
海外は地域別にまだらであった。



\*1 地域名は当社グループ拠点の所在地域(グループ内取引は除く)です。また、当社グループのシンガポール、中国、アメリカ拠点の決算期は12月となるため、2024年3月期2Qに織り込まれる業績は2023年1月~2023年6月の期間のものとなります。

2024年3月期第2四半期決算説明会資料

8

続いて、こちらは、デバイス事業におけるエリア別の売上となります。

国内は前期比33.3%増と大きく伸びており、海外トータルでも前期比で8.5%伸ばしております。

顧客のグローバルでの生産戦略の変化などもあり、当社のシンガポールと中国事業所の売上が前期に対し1割程度減少しております。

一方で、シンガポールと中国を除くアジア圏の売上や、北米、欧州の売上は二桁増となっており、エリア別にまだらな状況でございました。

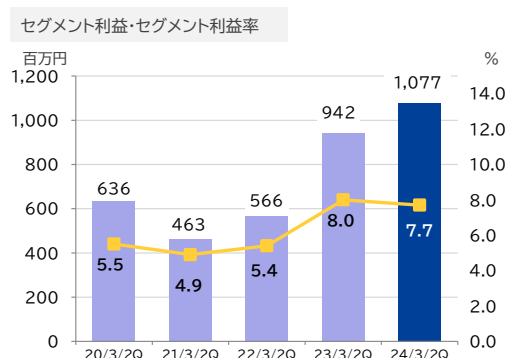
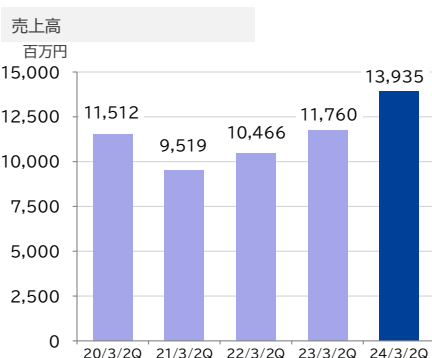
## ソリューション事業 業績概要



- 自動化・効率化を目的としたIT投資需要を取り込み売上が増加した。
- 事業別売上構成の変化により、セグメント利益率は0.3ポイント低下した。

(単位:百万円)

	2023年3月期2Q		2024年3月期2Q		
	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比
売上高	11,760	100%	13,935	100%	+2,175 +18.5%
セグメント利益	942	8.0%	1,077	7.7%	+135 +14.3%



2024年3月期第2四半期決算説明会資料

9

続きまして、ソリューション事業の業績をご説明いたします。

売上高は139億3,500万円で、前期比18.5%増加、セグメント利益は10億7,700万円で、前期比14.3%増加となりました。

ソリューション事業は、自動車産業の顧客の投資需要を取り込み、売上は前期に対し21億円増加しました。

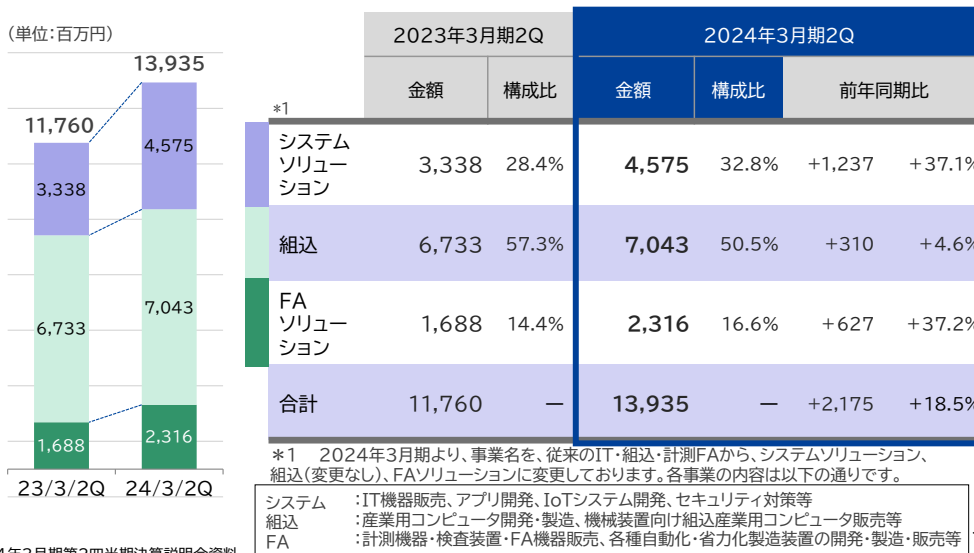
利益率は0.3ポイント下がったものの、利益高は1億3,500万円増加しております。

## ソリューション事業 事業別売上高前期比較



- 一時的に設備投資を抑制する動きがみられたものの、自動化・効率化を目的としたIT投資などの需要を取り込んだ。
- FAソリューションの売上増は2022年9月に子会社化した萩原エンジニアリングが寄与した。

(単位:百万円)



2024年3月期第2四半期決算説明会資料

10

ソリューション事業の売上について、少し分解しご説明させていただきます。まずは、事業別の売上状況です。

ソリューション事業は、システムソリューション、組込、FAソリューションの三つの領域で構成しておりますが、萩原エンジニアリングの子会社化による売上寄与があったFAソリューションを除くと、システムソリューション領域の売上増加が特徴的でした。

一時的に設備投資を抑制する動きがみられましたが、DX推進やセキュリティ強化といった切り口での投資意欲は、自動車産業のお客様に限らず非常に高い状況にございました。

一方、組込の領域では顧客ごとにまだらな状況ではございましたが、好調だった前年の数値を維持している状況です。

FAソリューションは、昨年9月末に子会社化した萩原エンジニアリングの売上4.4億円が純増となっております。また、その影響を除いた場合も前年に対し売上は増加をしております。

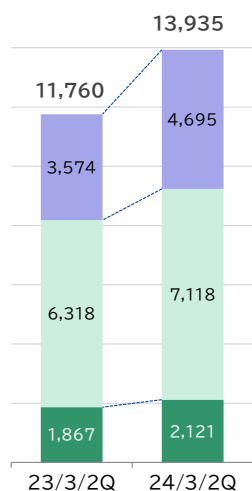
システムソリューション領域が大きく売上が伸び、3領域の売上構成比率が変化したことで、ソリューション事業の利益率が0.3ポイント低下をしております。

## ソリューション事業 業種別売上高前期比較



- 自動車関連企業を中心とした積極的な設備投資の需要を取り込んだ。自動化・効率化を目的としたIT投資は全業種で高い需要があった。

(単位:百万円)



(単位:百万円)

	2023年3月期2Q		2024年3月期2Q		
	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比
自動車	3,574	30.4%	4,695	33.7%	+1,120 +31.4%
FA・産業機器	6,318	53.7%	7,118	51.1%	+800 +12.7%
その他	1,867	15.9%	2,121	15.2%	+253 +13.6%
合計	11,760	—	13,935	—	+2,175 +18.5%

2024年3月期第2四半期決算説明会資料

11

続きまして、お客様の業種別売上の前比較となります。

どの業種の顧客においても、システム領域における投資意欲は非常に旺盛であり、自動車産業、産業機器産業すべて前期を上回っております。

自動車産業の顧客では、システム投資需要に加えて電動化の伸展に伴う設備投資需要も活況であり、ソリューション事業の売り上げを牽引しました。

## 2024年3月期第2四半期業績



- 営業外収益に為替差益1.2億円計上。また、前年同期にM&Aに伴う負ののれん発生益6.7億円<sup>\*1</sup>を特別利益に計上したことの反動減があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益は過去最高。
- 1株当たり中間配当金は、期初予想より35円増配し95円。

(単位:百万円)

	2023年3月期2Q		2024年3月期2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	86,412	100%	108,013	100%	+21,601	+25.0%
営業利益	2,671	3.1%	4,589	4.2%	+1,917	+71.8%
経常利益	2,909	3.4%	4,623	4.3%	+1,713	+58.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,606 <sup>*1</sup>	3.0%	3,036	2.8%	+429	+16.5%
1株当たり中間配当金 (円)	60	-	95	-	+35	-

\*1 前期2Q時点ではM&Aに伴う負ののれん発生益等について暫定的な会計処理を行っていましたが、前期末に確定したため、本資料では、負ののれん発生益を確定値670百万円に置きなおして各数値を記載しております。

12

2024年3月期第2四半期決算説明会資料

以上のような各事業の状況に加えて、為替差益1.2億円を営業外収益に計上し、経常利益は46億2,300万円となり、前年比58.9%増加いたしました。

また、前年同期には萩原エンジニアリングの子会社化に伴い負ののれん発生益を特別利益に計上しており、今期はその反動減がございましたが、四半期純利益は30億3,600万円で前期を上回りました。

補足として、この負ののれん発生益の金額ですが、前期は9月末時点で暫定値として8.8億円を計上しており、年度末に確定値として6.7億円に修正いたしております。

このため、本資料に記載している前期の四半期純利益は確定値6.7億円に置き換えた数値にて記載をしております。

中間配当は、好調な業績を受け、期初予想から35円増配し、一株あたり95円とさせていただきます。

以上が、当第2四半期の決算の概要でございます。

2024年3月期第2四半期決算概要

## 2024年3月期業績予想

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(現状分析)

トピックス

## 2024年3月期業績予想



- 第2四半期までの実績および昨今の業績動向を踏まえ、期初予想に対し上方修正を行い、3期連続で過去最高を更新する見通し。

(単位:百万円)

	2023年 3月期	2024年 3月期				
	実績(A)	期初予想 (B) (5月15日)	修正予想 (C) (11月10日)	増減額 (C-B)	対前期 増減額 (C-A)	対前期 増減率 (C-A)/A
売上高	186,001	213,000	<b>227,500</b>	+14,500	+41,498	+22.3%
営業利益	6,725	6,300	<b>8,350</b>	+2,050	+1,624	+24.2%
経常利益	6,417	6,000	<b>8,200</b>	+2,200	+1,782	+27.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,912	3,900	<b>5,300</b>	+1,400	+387	+7.9%
1株当たり当期純利益 <sup>*1</sup> (円)	554.71	437.02	<b>549.93</b>	+112.91	▲4.78	—

\*1 新株予約権の権利行使により前年同期と比較し発行済株式数が増加しており、1株当たり当期純利益は、それぞれ発表時点において発行済株式数の増加を考慮して算出いたしております。上記の新株予約権の権利行使は、2023年10月6日にすべて完了しており、本資料公表時点の当社の発行済株式総数は、10,118,000株となります。

2024年3月期第2四半期決算説明会資料

14

続きまして、2024年3月期通期の見通しをご説明いたします。

第2四半期までの業績と、昨今の動向を踏まえまして、決算発表同日の11月10日に通期業績予想を上方修正いたしました。

通期売上2275億円、営業利益83億5,000万円、経常利益82億円、当期純利益53億円を計画しております。


下期以降は、デバイス事業を中心に引き続き好調な売上成長を見込んでおります。

ソリューション事業においては、自動車産業での電動化領域に関する投資は引き続き活況な一方で、対中国の影響や一部顧客の市況の変化による投資抑制がはたらく懸念があると見ております。

売上と利益は、上期同様、デバイス事業、ソリューション事業ともに増加を見込んでおります。

## 中期経営計画(2022年3月期～2024年3月期) KPIの進捗

- 最終年度の経営目標は当初目標を大幅に上回る目標値に更新した。


(単位:百万円)

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	当初の最終年度 2024年3月期 目標値	最終年度 2024年3月期 目標値(11/10)
<b>売上高</b>	127,830	158,427	186,001	170,000	227,500
2021年 3月期比	-	+23.9%	+45.5%	+33.0%	+78.0%
<b>営業利益</b>	3,468	4,356	6,725	5,000	8,350
2021年 3月期比	-	+25.6%	+93.9%	+44.1%	+140.8%
<b>ROE</b>	6.8%	8.0%	12.5%	8.0%	10.0%以上

2024年3月期第2四半期決算説明会資料

15

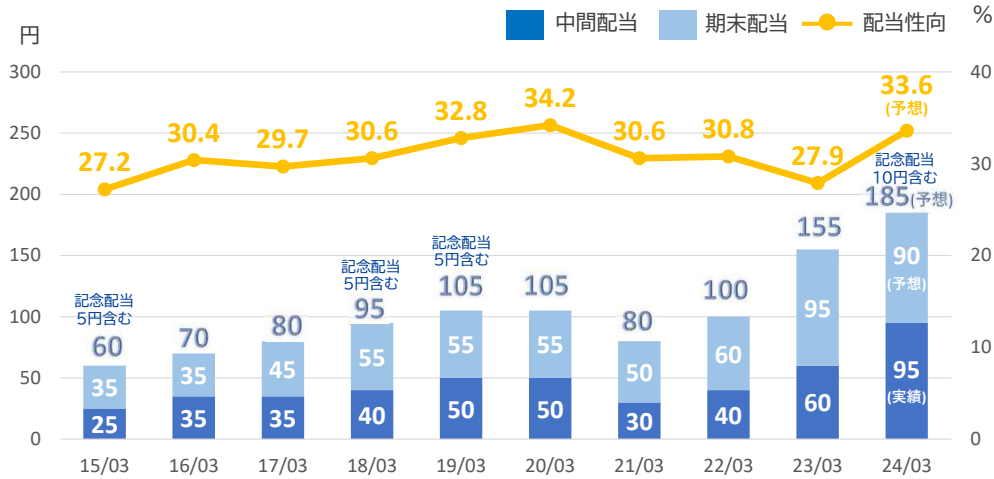
通期の見直し変更に伴い、中期経営計画の計数目標を11月10日に更新いたしております。ROEは10%以上を目標にしております。

## 株主還元



- 基本方針は配当性向30%を目途とした安定配当。
- 業績好調により、期初予想に対して40円増配し年間配当185円の予定。

配当金および配当性向の推移



2024年3月期第2四半期決算説明会資料

16

また、年間配当についても期初予想から上方修正をいたしました。

中間配当の増配に加え、期末配当予想を90円とし、年間配当予想は期初予想に対し40円増配の185円を予定しております。

2024年3月期第2四半期決算概要

2024年3月期業績予想

**資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応  
について(現状分析)**

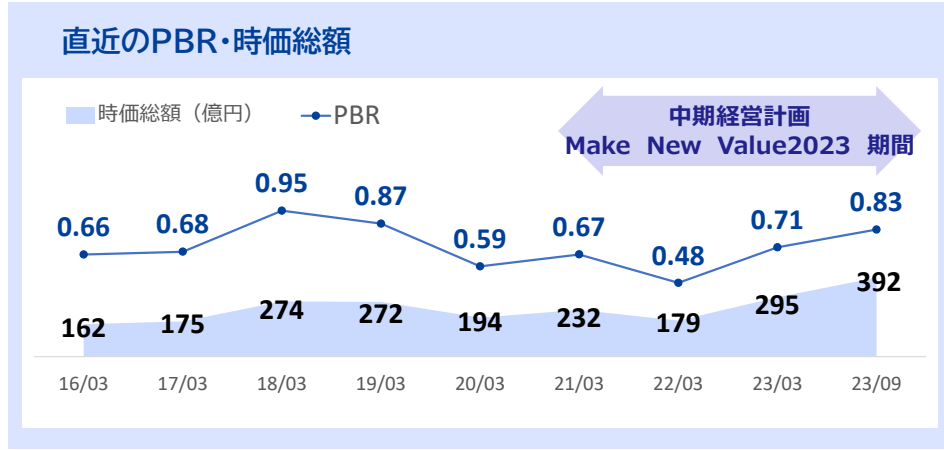
トピックス

それでは次に、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について  
当社の状況をご説明いたします。

【現状分析】 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応



- 中期経営計画に基づいた経営戦略の実行による事業成長や企業価値向上への取り組みにより、PBRおよび時価総額は上昇傾向にある。



\* PBRは期末の株価終値とBPSより算出

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応については「現状分析」「計画策定・開示」「取組みの実行」の一連の対応を継続し、その進捗状況について検証し、開示する旨が東京証券取引所より求められています。

本件について、当社では、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けた取り組みを加速するべく、現在、経営陣による議論を重ねております。

本日は、当社の現状分析についてお話をさせていただきます。

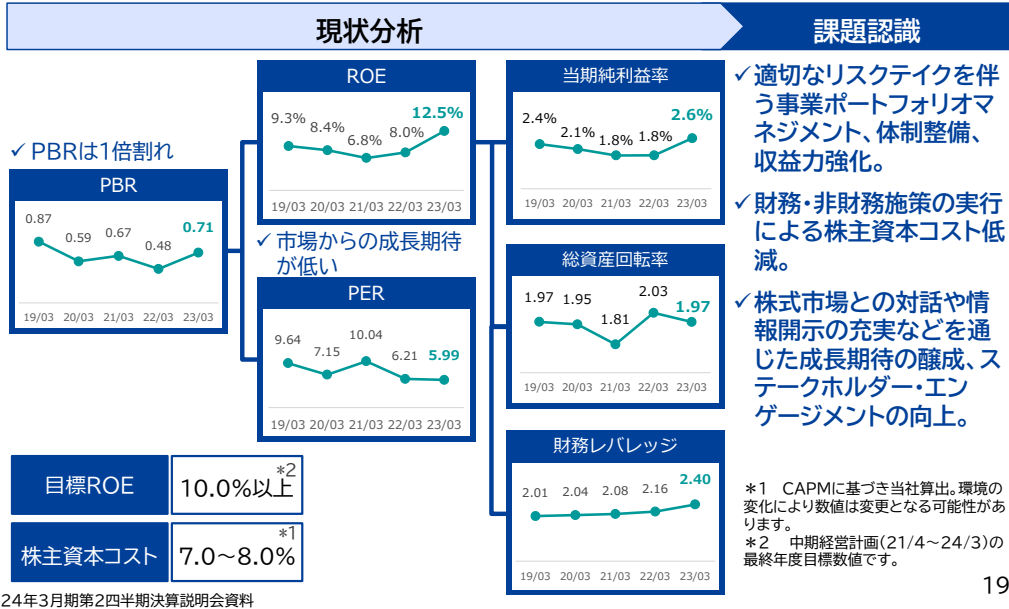
こちらは2016年3月期以降の当社PBRと時価総額の推移です。

一時はコロナ禍における事業環境の見通しの不安感もあり、PBR0.5倍前後で推移する時期があったものの、中期経営計画の戦略を実行する中で着実な事業成長をとげたことと、SDGs経営の推進による企業価値向上への取り組みを評価いただいたことなどにより株価が上昇し、PBRと時価総額がそれぞれ高まってまいりました。

**【現状分析】 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応**



- 直近のROEは株主資本コスト<sup>\*1</sup>を上回るもののPBRは1倍を下回る。
- 収益力の向上に加え、株式市場での評価向上への取り組み強化が必要。

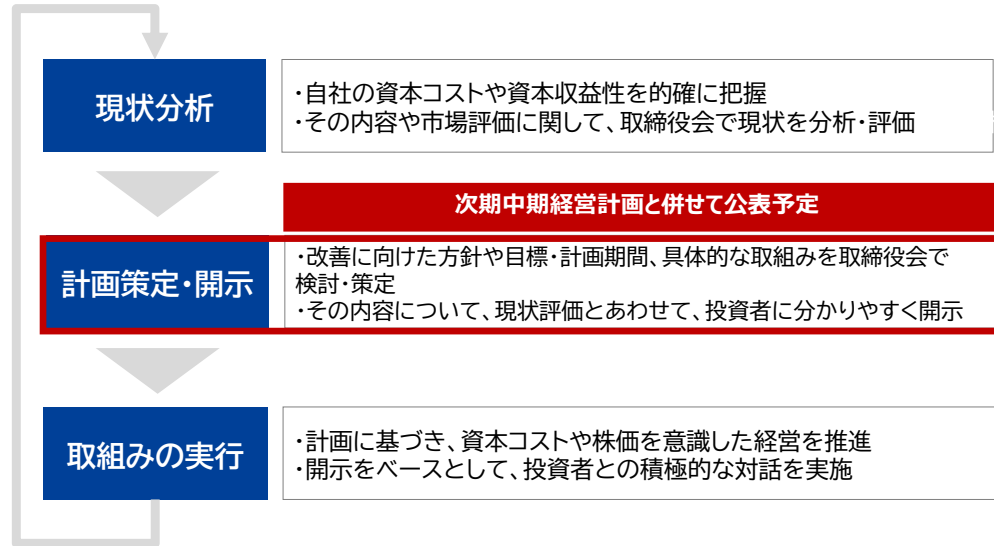


ROEについては、直近では株主資本コストを上回って推移しております。

年初からの株価上昇もありPBRは1倍に近づいてはいるものの、今後1倍を上回り安定的に推移するためには、(1) 事業ポートフォリオマネジメントの実行と収益力向上(2) 株主資本コストの低減(3) 株式市場における成長期待の醸成が課題であると認識いたしております。

【今後の予定】 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 

- 現状分析を踏まえた具体的な取組みについては、次期中期経営計画と併せて公表を予定。



以上の現状分析を踏まえた具体的な計画については、引き続き取締役会での議論を進めてまいります。

資本コストや株価に対するアプローチは、中長期の事業戦略と一体化した取り組みとなりますので、次期中計を公表するタイミングで合わせてご説明させていただきます。

以上で、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応に関する当社の状況についてご案内させていただきました。

2024年3月期第2四半期決算概要

2024年3月期業績予想

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(現状分析)

トピックス

それでは最後に最近のトピックスについて簡単にお話させていただきます。

## パートナー連携による新領域事業の強化



- 萩原エレクトロニクスは、位置情報に基づく次世代駐車場の車載決済デモシステムを、米国スタートアップ企業の技術をベースに、車載側ソフトウェアとスマホアプリを国内大手Tier1と共同開発。ジャパンモビリティショー2023にて展示し好評であった。



### 【次世代駐車場 車載決済デモシステム】

駐車場設備(入出庫ゲートや車止め装置など)がないスペースに対して、利用条件に関する属性(駐車可否や課金方法)をクラウド上で設定し、駐車場として利用できることが特徴。

車載機器側は正確な位置情報を得るアルゴリズムとクラウドと通信できるソフトウェアを搭載しており、任意の駐車スペースの属性に沿って課金を実施。

- 駐車設備を導入せず駐車場化が可能
- 曜日や時間、イベントの有無に応じた料金設計が手軽にでき、稼働率や収益向上を図ることが可能

まずは、パートナー連携による事業会社の新領域へのアプローチ強化についてご紹介いたします。

デバイス事業を展開する萩原エレクトロニクスは、2021年に出資した米国スタートアップのSheeva.AI社と共に、スマートで快適なカーライフを実現する為の車載決済市場の開拓に取り組んでおります。

世界の車載決済市場は2032年までに200億ドル規模まで拡大すると予測されており、萩原エレクトロニクスでは、技術検証と利便性の体験を目的としたデモシステムの開発を国内大手Tier1の協力を得て実施いたしました。

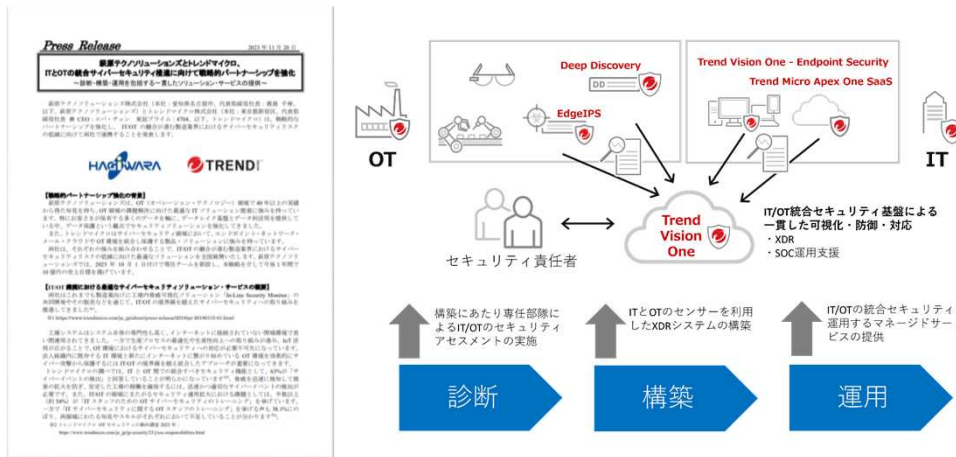
この車載決済システムは、高精度な位置情報を活用したシステムであり、駐車場設備がないスペースに対して、駐車可否や課金方法などをクラウド上で設定することで駐車場として利用できることが特徴です。

先月開催されたジャパンモビリティショーでも、萩原エレクトロニクスの展示ブースにてこのデモシステムをご紹介しましたが、自動車メーカー様、Tier1様だけでなく、シェアカー事業者様、エネルギー事業者様など多様な業種の企業様から良好な反応を得ることができました。

## パートナー連携による新領域事業の強化



- 萩原テクノソリューションズは、IT領域とOT領域の融合が進む製造業界における統合サイバーセキュリティの推進に向けて、トレンドマイクロ社と戦略的パートナーシップを強化。技術系商社としての実績から得た知見とパートナー連携により、ソリューションの全国展開を図る。



\*2023年11月20日発表トレンドマイクロ社との共同プレス

つづいて、ソリューション事業を展開する萩原テクノソリューションズのセキュリティ事業強化の事例をご案内いたします。

近年、高度化するサイバーセキュリティ脅威への対策が重要な経営課題の一つとなっておりますが、製造業のお客様においても、IoTやAIなどの技術活用が進むなかで、その必要性が高まっております。

萩原テクノソリューションズは、OT領域での40年以上の実績から得た知見を持っており、OT領域の課題解決に向けた最適なITソリューション提案に強みを持っています。特にお客様が保有する多くのデータを軸に、データレイク基盤とデータ利活用を提供している中、データ保護という観点でセキュリティソリューションを強化してまいりました。

一方、トレンドマイクロ社はサイバーセキュリティ領域において、エンドポイント・ネットワーク・メール・クラウドやOT環境を統合し保護する製品・ソリューションに強みを持っています。

それぞれの強みを組み合わせることで、ITとOTの融合が進む製造業界におけるサイバーセキュリティリスクの低減に向けた最適なソリューションを提案できると考えております。萩原テクノソリューションズでは、これまで東海エリアを中心にビジネス展開をしてまいりましたが、本パートナーシップの強化を機に各地に根付いたSIerとの連携を更に強化し、今後対象エリアを全国に広げてまいります。

## 萩原エレクトロニクスの香港子会社を設立



・事業基盤の強化とビジネスの拡大を目的に、当社子会社に新たに中国(香港)子会社を設立。既存の中国(上海)子会社とともに、主要顧客の生産拠点への安定的な商品供給に努め、グローバルサプライチェーンの安定化に寄与する。

### 【新会社の概要】

商号	萩原電気香港有限公司(予定) (英語表記:Hagiwara Electronics Hong Kong Limited(予定))
所在地	中華人民共和国香港特別行政区
決算期	12月末
大株主および持株比率	萩原エレクトロニクス株式会社100%
設立年月日	2023年12月(予定)
営業開始予定	2024年2月(予定)
事業内容	集積回路・半導体・一般電子部品の販売

2024年3月期第2四半期決算説明会資料

24

次に、萩原エレクトロニクスの海外子会社設立についてご説明させていただきます。

当社グループは、中期経営計画において、グローバルビジネスの拡大を重要な戦略の一つに位置付けております。

現在萩原エレクトロニクスの海外子会社として、北米、欧州、中国、韓国、タイ、シンガポール、インドに海外法人を設立しております。

中国には、2006年に上海に現地法人を設立しており、主要顧客の生産拠点に対し安定的な商品供給と技術開発のサポートに努めてまいりましたが、さらなる事業基盤の強化とビジネスの拡大を目的に、新たに香港に新会社を設立することといたしました。

当面は上海子会社と両輪で主要顧客の生産拠点への商品供給をメイン事業とし展開する予定です。

## 第3回新株予約権は行使完了



- ・主要顧客である自動車業界のサプライチェーン安定化が急務であり、当社グループのグローバルな安定供給体制の構築を目的として、本資金調達を実行した。
- ・本新株予約権の権利行使は2023年10月6日にすべて完了し、資金調達額は34億64百万円となった。

### 【新株予約権の概要】

銘柄名	萩原電気ホールディングス株式会社 第3回新株予約権(行使価額修正条項付)
発行日	2023年4月24日
新株予約権個数(株式数)	11,000個(1,100,000株)
割当先および割当方法	SMBC日興証券に第三者割当
行使完了日	2023年10月6日 にすべて完了
発行済株式総数	10,118,000株(2023年10月6日時点)

最後に、今年4月24日発行した第三者割当による第3回新株予約権の行使が完了した旨をお伝えさせていただきます。

本資金調達は、当社のグローバルな安定供給体制の構築を目的としたものであり、本年10月6日にすべて権利行使が完了し、34億6400万円を調達したことをお知らせいたします。



## 創造と挑戦

先進エレクトロニクスで未来を創造する  
ソリューションデザインカンパニー

引き続きご支援ご鞭撻を  
よろしくお願い申し上げます

本資料のうち、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。  
予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

以上で、本日の説明を終了させていただきます。

引き続き、中期経営計画に沿った施策に着実に取り組み、価値創造企業として持続的な成長を目指してまいります。

本日はご清聴いただき、誠にありがとうございました。